

静岡県

# 土地改良



謹賀新年

写真：静岡県農村景観写真コンクール 入賞 撮影場所：富士市大淵

- 年頭のご挨拶（水土里ネット静岡 会長 伊東 真英）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 新年に当たって（全国水土里ネット 会長 二階 俊博）・・・・・・・・・・・・ 2
- 新年挨拶（全国水土里ネット会長会議 顧問 進藤かねひこ）・・・・・・・・ 3
- 平成28年度 農業農村整備事業関係予算概算要求の概要・・・・・・・・・・・・ 4
- 平成27年度 静岡県農林水産功労者表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 第38回全国土地改良大会青森大会が開催されました・・・・・・・・・・・・ 5
- 自民党静岡県連 平成28年度 予算編成に対する要望活動・・・・・・・・・・・・ 7
- 関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会 秋季総会及び国への要請活動・・・ 8
- 土地改良事業推進協議会 平成28年度予算確保に係る要請活動・・・・・・・・・・・・ 8
- 農業農村の集いー農を守り、地方を創る予算の確保に向けてー・・・・・・・・ 9
- 水土里ネット静岡 土地改良施設管理指導研修会を開催しました・・・・・・・・ 10
- 水土里ネット静岡 土地改良区基盤強化事業会計コース研修会を開催しました・・・ 10
- 関東一都九県 技術力向上事業研修会を開催しました・・・・・・・・・・・・ 11
- 静岡県農山村地域再生可能エネルギー利用推進協議会が設立されました・・・ 12
- 牧之原畑地総合整備土地改良区の伊藤壽一理事長が日中関係改善に一役・・・・ 12
- 行事予定（1月～3月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13



豊かな農村空間を創造する

みどり  
**水土里 ネット 静岡**  
 静岡県土地改良事業団体連合会

## 年頭のご挨拶

水土里ネット静岡  
(静岡県土地改良事業団体連合会)  
会長 伊東 真英



平成 28 年の年頭に当たり、会員並びに関係者の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

日頃より本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、7 月には一昨年 of 富士山に引き続き伊豆の国市の韮山反射炉が「世界文化遺産」への登録となり明るい話題がありました。一方で、箱根山をはじめとした各地で火山活動が活発化し、茨城、栃木県での鬼怒川による災害など、異常気象による想像を絶する被害が再び発生しました。被災された各地域の皆様にはお見舞いを申し上げ、一刻も早い復興を願っているところであります。

このような状況の中で、10 月に環太平洋経済連携協定 (TPP) の大筋合意がなされ、一昨年発表した平成 32 年に農林水産物と食品の輸出額を 1 兆円とする目標を、前倒しして達成することを目指すことや、農家の保護などを盛り込んだ政策大綱が決定されました。

政策大綱のうち農林水産業への対策は、生産者の競争力強化と米や麦など重要 5 項目の経営安定化が柱となっています。

次世代の担い手育成に向けて、農業機械や施設の設備投資への支援を強化するほか、耕作されなくなった農地を意欲ある生産者に貸し出して大規模化を図る「農地中間管理機構」の取組みを拡充し、「産地パワーアップ事業」と呼ぶ支援策を新たにつくり、収益性の高い作物への切り替えを行う生産者の支援や、新たな国産ブランドの品種の開発を強化することを支援していくこととしています。

とりわけ米の対策は、アメリカとオーストラリアから合わせて年間 7 万 8 4 0 0 トンの輸入枠を設けることから、輸入が増える分に相当する国産の米を政府が備蓄用として買い入れることで主食用の米の価格が下落するのを防ぐこととしています。この支援策は、毎年、国が買い入れる米の量が増えることになり、結果として、国費が今の 300 億円規模からさらに 100 億円規模で増えることとなります。

本県の主要作物であるミカンについては、オレンジの関税が段階的に引き下げられ 8 年目までに撤廃されます。味や食べやすさが異なり差別化されていますが、関税が撤廃されることによって輸入量が増え、品質を改良されたりした場合は、国産みかんの価格が下落する可能性があり、新たな国産ブランドの開発が必要となります。

また、TPP は輸出品への諸外国の関税制度も変わることから、農業経営の安定と永続のために、より多くの農産物を輸出する契機にしなければならないと考えます。

いずれにしましても、農家にとって自立に向けた年でもあり、不安を感じている方々も多いと思いますので、農家の皆様が困窮しないように、本会としても会員に手を差し伸べて行く覚悟であります。

今年も、本会の役割と責任を認識し、本県の農業の更なる発展のために、職員一丸となって取り組んでまいりますので、今年も引き続き一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申しあげまして、私の新年の挨拶と致します。

## 新年に当たって

全国水土里ネット  
(全国土地改良事業団体連合会)  
会長 二階 俊博



平成 28 年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいている皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年、当会の会長に就任しましてから、関係者の皆様のご支援を受けながら、これまで事業の推進に尽力して参りました。とりわけ、会長就任時には民主党政権時代に 7 割近く削減された状況であった予算を、まずは復活させようと、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し、悲鳴が上がっておりましてし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりました。このため「闘う土地改良」を旗印に、真剣な取り組みを訴えて参りました。おかげさまで、昨年末には平成 27 年度補正予算と同 28 年度予算とで総額 4,810 億円を政府予算編成案において確保することができました。

私は、皆様の要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく、本会として具体的な行動を起こすことが重要である旨申し上げ、次期参議院選挙には候補者を打ち立てて、明確な意思を表明することが重要であると申しました。おかげさまで、農林水産省から進藤金日子君が現職課長を辞して立候補することとなりました。彼は秋田県の農村出身で、土地改良に熱い思いを持っており、是非、土地改良のために頑張りたいと積極的に活動してくれています。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

さらには、昨年 T P P 交渉が大筋合意されたことを受けて、「総合的な T P P 関連政策大綱」が決定されましたが、私は農業農村の振興に、支障を来さないように努力をしていかなければならないと思っております。

我々水土里ネット関係者としましては、このような現状をしっかりと受け止め、積極的に役割を果たしていくことが重要と考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要と考えます。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開するべく全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

土地改良は、農業農村の整備や振興を通じて国土を維持し、発展させることを目的としております。そのためには、自分達の生活は必ずや自らが守り発展させていくという気構えが不可欠です。それを、我々の先人達が時々の時代背景の中で繰り返し最大限努めてきたことだと思うのです。現代に生きる我々が手をこまねていることは決して許されることではありません。私は全国の土地改良関係者の皆様の協力をいただきながら、ひき続き予算の獲得や参議院選挙の勝利に向け真剣に闘う決意を新たにいたしました。

本日、輝かしい年の初めに当たり、本年が全国の皆様にとってよき年でありますように、ご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

## 新年挨拶

“闘う土地改良”の先頭に立って

全国水土里ネット会長会議  
顧問 進藤 かねひこ



新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年の6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議（全国水土里ネット会長会議）顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km（地球10周分）の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」ではありますが、その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

1. 土地改良の予算確保に全力
2. 日本型直接支払制度の充実に全力
3. 災害に強い農山漁村づくりに全力
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
5. 農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

平成28年度 農業農村整備事業関係予算概算要求の概要

(単位：億円)

	27年度 予算額	28年度 要求・要望額	対前年比(%)
農業農村整備事業	2,753	3,372	122.5
農山漁村地域整備交付金 (農業農村整備分)	735	857	116.5
農地耕作条件改善事業(非公共)	100	359	359.1
計	3,588	4,588	127.9

農業農村整備事業の概要

(単位：億円)

事 項	27年度 予算額	28年度	
		要求・要望額	対前年比(%)
<b>農業農村整備事業</b>			
国営かんがい排水	1,053	1,232	117.0
国営農地再編整備	229	288	125.5
国営総合農地防災	228	290	127.0
直轄地すべり	19	15	81.6
水資源開発	69	73	105.0
農業競争力強化基盤整備			
うち農業競争力強化基盤整備	341	478	140.2
農業基盤整備促進	225	225	100.0
農業水利施設保全合理化	45	70	157.8
水利施設整備(農地集積促進型)	6	6	100.0
農村地域防災減災	280	442	157.8
土地改良施設管理	155	156	100.4
その他	102	97	94.8
計	2,753	3,372	122.5

(注) 計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

## 平成 27 年度 静岡県農林水産業功労者表彰

平成 27 年 11 月 4 日（水）、静岡県庁において平成 27 年度静岡県農林水産業功労者表彰式が行われました。

この表彰は、静岡県農林水産業の生産性の向上と農林水産業者の所得増大を図るうえで功労のあった方および団体を表彰し、農林水産業者の技術改善や経営発展への意欲高揚を図ることを目的として毎年行われているもので、本年度は、農業部門 25 名、林業部門 5 名、水産業部門 3 名が表彰されました。

土地改良関係では、富士根畑そう土地改良区理事長の上杉善久氏が受賞の栄に浴されました。

ここに改めて、受賞に対しお祝い申し上げますとともに、今後一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

氏名	うえすぎ よしひさ 上杉 善久
生年月日	昭和 11 年 7 月 16 日（79 歳）
主要経歴	富士根畑そう土地改良区理事長
功績概要	多年、農業に従事する傍ら、農業経営の安定と向上を図る県営畑地帯総合整備事業の推進に寄与するとともに、関係土地改良区理事長の要職を歴任し、地域農業の振興に貢献されました。



上杉善久氏と奥様

## 第 38 回全国土地改良大会青森大会が開催されました

平成 27 年 10 月 15 日（木）、第 38 回 全国土地改良大会 青森大会が、～あずましの風流れる青森大会～「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」をテーマに、新青森県総合運動公園 マエダアリーナ（青森市）で開催されました。

式典では、開催地である青森県土地改良事業団体連合会の野上憲幸会長、主催者である全国水土里ネットの二階俊博会長の挨拶、三村申吾青森県知事による歓迎のことば、伊藤良孝農林水産副大臣からの祝辞がありました。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰 6 名、農村振興局長表彰 16 名、全国土地改良事業団体連合会長賞 45 名が表彰されました。本県からは、都田上土地改良区理事長の川合巖氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受けました。

基調講演では、農村振興局室本隆司次長による「青森の土地改良に見るくにつくりの歴史」と三村県知事より「あおもり発!!「環境公共」の推進について」の講演があり、基調報告では、東日本大震災地域である岩手県、宮城県、福島県から「東日本大震災、その後の新たな芽生え」として、状況、課題、展望の報告がありました。



川合 巖 氏

県内の土地改良事業優良事例地区紹介では、北三沢土地改良区と鬼沢檜木土地改良区からの取組みが報告されました。

21年前に開催した第17回全国土地改良大会青森大会の時に、営農大学生で大会宣言を行った森幸弘さん、阿部麻貴さんの2人と、現在営農大学生である中田圭武さん、佐々木ちひろさんの計4名によって大会宣言が力強く行われました。

その後、大会旗が次期開催県である石川県の西村徹土地連会長へ、高貝久遠全土連副会長を介して、野上青森土地連会長から引き継がれ、次期開催地の挨拶の後、閉会となりました。

また、事業視察が翌日の16日に6コースに分かれて行われました。

### 大会宣言

私たちは、今から21年前に次世代を担う若者の代表として、「第17回全国土地改良大会 青森大会」で、活力ある農業農村づくりを宣言いたしました。

農を生業として、それぞれ生産現場の第一線で、しっかり大地に根を張って、日々の仕事に従事しています。

この間、私たちは、安全で安心できる作物の生産や品質の向上に努め、消費者の喜ぶ笑顔を励みに、さらなる向上を目指してまいりました。

しかし、農産物の自由化や消費者ニーズの多様化といった時代の変化の影響を受け、加えて、高齢化社会の進行や過疎化、担い手不足がそれに拍車をかけるなど、かつて経験したことのない試練に遭遇しています。

それでも、私たちはここで立ち止まるわけにはいきません。

この先いかなる困難が来ようとも、農業の持続的発展と農業の活力強化のために、これまで培ってきた経験を活かし、技術を磨き、多くの仲間の英知を集結して、必ずやこの局面を打開していかなければならないと、改めて決意を強くするものです。

そして、忘れてならないのは、農業の持続と農村の活力を支える、「水と土」の健全性を確保していくことです。

白神山地や八甲田山系から流れる湧水は、やがて本流となって大地を隅々まで潤し、そこには豊かな緑に囲まれた「あづましい農村」と多様な生態系が形成され、消費者が喜ぶ安全・安心な農作物が育つのです。

今日ある農業農村の繁栄は、先人達が自然の営みと共存しながら、幾多の艱難を乗り越え、土地改良の技術を駆使して、水を引き、農地を拓いてきたからではないでしょうか。

私たちはそうした「水と土の防人」たちが流した汗の結晶を、しっかり胸に刻印し、「強い農業」と「美しい活力ある農村」づくりを支えている土地改良を、国の目指す方向を見据えながら、力強く牽引していく、その一歩を踏み出す覚悟です。

本日ここに集う私たち「水土里ネット」は、「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」に思いを馳せ、魅力のある農業農村の明るい未来を確かなものにしていくため、農業農村の礎である「水・土・里」を健全な姿で次世代に引き継いでいくことを、ここ、「北のまほろば青森」から高らかに宣言します。

自民党静岡県連・農林水産対策連絡協議会平成 28 年度 予算編成に対する要望活動

平成 27 年 10 月 27 日（火）に、本会並びに静岡県土地改良事業推進協議会は、平成 28 年度の農業農村整備事業予算の確保に向けて、県議会正副議長、難波副知事、高副知事、野知交通基盤部長、絹村農業・農地連携担当理事並びに農地局幹部職員に対し提案・要望活動を行いました。

平成 28 年度に向け、農業を若い新規就農者が働く産業にする、農地を集積する、所得を確保する、という方向性を重視した取組を強化すべき内容と新たに取り組むべき内容について、下記の 4 項目にわたり要望書を提出しました。



農林水産対策連絡協議会への提案要望活動

## 記

### 1 「人」ひとづくり、県民意識の醸成

- (1) 農業農村整備を進める上での基礎知識の習得や実践的な現場技術の研修への支援
- (2) 平成 29 年秋、沼津市において開催する第 40 回全国土地改良大会への支援

### 2 「水」農業水利施設の適切な保全管理の推進

- (1) 国営かんがい排水事業の大井川用水地区の早期完了、牧之原地区（特別監視型）、豊川用水二期地区、三方原用水二期地区の推進に必要な予算確保と併せて、附帯する県営事業、団体営事業の進捗に跛行が生じないように、計画的な整備推進と予算の確保
- (2) 土地改良施設維持管理適正化事業による整備が計画的に行われ、施設が効率的かつ経済的に維持されるための県の拠出の継続と、更なる予算の確保

### 3 「土」基盤整備を契機とした農地集積・集約化の促進

- (1) 農業農村整備の推進を担う本会と農地中間管理機構が連携し、担い手への農地集積・集約化が円滑に進められる基盤整備への支援
- (2) 土地改良区や市町の期待が大きく、農地中間管理事業の進捗にも寄与する農業基盤整備促進事業及び農地耕作条件改善事業の推進に必要な予算の確保

### 4 「邑」集落機能の維持と地域資源の保全

- (1) 地域自らが農業・農村が有する多面的機能を支える共同活動を支援する多面的機能支払制度を熟知した専門職員配置への支援
- (2) 「静岡県水土里情報システム」を活用したハザードマップの整備等による農業水利施設の保全・管理対策への支援



関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会 秋季総会及び国への要請活動

平成 27 年 11 月 6 日（金）、東京都において、関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会の秋季総会が行われました。

総会では農業農村整備事業推進に関わる国に対する要請・要望・提案内容等について、審議が行われ、その後、3 班に分かれ、衆参の国会議員、財務省、農林水産省及び関東農政局へ提案要請活動が実施されました。

要 旨

- 1 平成 28 年度農業農村整備事業当初予算の確保
- 2 農地中間管理事業の推進と農地集積先行地域への支援強化
- 3 国土強靱化を図る農業水利施設の保全管理、防災・減災対策の推進
- 4 農業・農村における再生可能エネルギーの導入促進
- 5 土地改良区及び地方連合会への支援強化



自由民主党 谷垣幹事長への要請活動

土地改良事業推進協議会 平成 28 年度予算確保に係る要請活動

平成 27 年 11 月 24 日（火）、県内の 7 つの土地改良事業推進協議会による、農業農村整備事業推進に関わる平成 28 年度当初予算確保に向け、国会議員並びに財務省及び農林水産省への要請活動が実施されました。

要請者は以下の皆さん

伊豆土地改良推進協議会	東伊豆町 副町長	鈴木忠一
東部土地改良推進協議会	沼津西浦畑地整備推進委員会 会長	高島敬司
富士土地改良推進協議会	富士東部土地改良区 理事長	渡邊利明
中部土地改良推進協議会	原土地改良区 理事長	瀧 幸雄
志太榛原土地改良推進協議会	大井川土地改良区 理事長	八木健次
中遠土地改良推進協議会	磐田原土地改良区 理事長	河島直明
西遠土地改良推進協議会	伊佐見土地改良区 理事長	今田欽也



森山裕 農林水産大臣への要請活動

## 農業農村の集いー農を守り、地方を創る予算の確保に向けてー

平成 27 年 11 月 27 日（金）、本年度第 2 回目の「農業農村整備の集い」が東京・砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにて開催され、多数の国会議員の隣席の下、全国の地方土連や土地改良区をはじめ、農水省からは森山裕大臣を筆頭に、伊東良孝副大臣、農村振興局幹部など、約 800 名にのぼる農業農村整備関係者が参集しました。

二階俊博全土連会長の挨拶では「平成 28 年度予算概算要求において、1000 億円の増額がなされているが、農業・農村施策の改革を加速させるため、引き続き一戦う土地改良ーであらねばならない。」との頼もしい発言があり、要請書の案文を全会一致で採択し、“ガンバロウ三唱”を唱和、力強く拳を突き上げ、予算確保に邁進することを誓い合いました。

本会からは、伊東会長、大石副会長をはじめ 14 会員の関係者総勢 25 名に参加いただきました。



二階俊博・全土連会長の挨拶

### 一 要 請 書（要約版） 一

- 1 安定的・計画的な事業執行のために、平成 28 年度当初予算においては、平成 22 年度に大幅に削減された土地改良関係予算の復活に向け、地域の要望を十分に満たす予算額を確保すること
- 2 TPP交渉の大筋合意結果を踏まえ、将来にわたって意欲のある農業者が希望を持って経営に取り込めるよう、万全な国内対策を積極的の講じること。  
さらに、今年度においても、事業執行を加速化するため、十分な規模の補正予算を確保すること。
- 3 食料自給率の向上と担い手への農地集積を加速化し、コスト低減や高品質な農作物の生産など強い農業の展開を可能とするため、水田の大区画化や汎用化、畑地かんがい施設の整備をはじめとした各種の対策を着実に推進すること。その際、中山間地域等の地域特性を踏まえた基盤の再整備により農業経営の展開が可能となるよう十分配慮すること。
- 4 東日本大震災をはじめとする災害からの復旧・復興を加速度的に進めるとともに、農村地域の強靱化に資するよう、ため池を含む老朽化した農業水利施設の長寿命化と耐震化、洪水被害防止等の防災・減災対策を、国が責任を持って着実に推進すること。
- 5 多面的機能支払制度の推進に当たっては、国において、十分な予算確保に加え、地域協議会や土地改良区がこれまで培った技術、経験などを十分発揮できるよう、都道府県を指導すること。
- 6 農村の資質を有効に活用し、再生可能エネルギーの普及、維持管理費の低減に資するため、小水力発電等を推進すること。
- 7 組合員に対する賦課金が高騰する一方で、担い手への農地集積等に対応した高度な水管理等が行えるよう、土地改良区の運営基礎の強化を図ること。

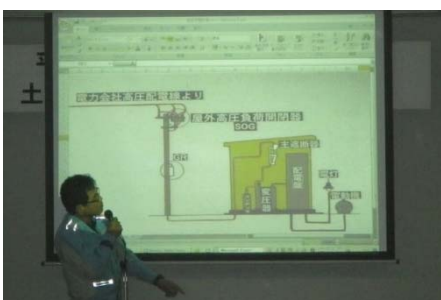
## 水土里ネット静岡 土地改良施設管理指導研修会を開催しました



平成 27 年 10 月 1 日（木）、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」（静岡市）において、土地改良施設の適切な管理及びポンプ設備の診断技術紹介を目的として、平成 27 年度土地改良施設管理指導研修会が会員等 33 名の参加者を得て開催されました。

静岡県農地局職員より「河川占有等の河川法」と「水利権の概要」の説明がされました。

続いて、中部電気保安協会 静岡営業所の高瀬孝一所长から「電気の安全な取り組み」を、トライボテックス株式会社 代表取締役の川畑雅彦氏から「機能診断に役立つトライボ診断（油分析による非分解診断）」の講義をしていただきました。



## 水土里ネット静岡 土地改良区基盤強化事業会計コース研修会を開催しました

平成 27 年 10 月 2 日（金）、静岡市産学交流センター「ペガサート」（静岡市）において、複式簿記会計に理解を深めるための研修会が会員等 27 名の参加者を得て開催されました。

農林水産省では土地改良区の複式簿記会計移行に関し、平成 27 年度から段階的・計画的に導入を図るプランを定めています。

今回の研修会は、複式簿記に特化した内容で、複式簿記の基本説明から資産評価及び減価償却に関する説明を全国水土里ネットや関東農政局の担当者より、複式簿記へ移行した群馬県の長野堰土地改良区の松澤伸一係長より事例紹介していただきました。

今後の移行作業の円滑な推進を期待します。



関東一都九県 技術力向上事業研修会を開催しました

平成 27 年 11 月 25 日（水）から 27 日（金）、静岡市内において農業農村整備事業に関する基礎的、専門的知識の取得と技術力の向上を目的とした研修会が、関東管内の市町、土地改良区及び土地連の職員 27 名の参加者を得て開催されました。

科 目	講 師
<b>農地制度</b> 農地法、農振法、耕作放棄地対策、農地中間管理事業及び今後の展開方向	関東農政局 農村計画課 佐藤栄一 課長補佐
<b>農業利水の概論</b> 現状や展望、行政動向等の総論	関東農政局 設計課 尾美広幸 水利計画官
<b>農業農村整備事業の概論</b> 現状と課題、将来展望等	関東農政局 設計課 石川英一 課長
<b>土地改良区の体制強化</b> 役職員の意識改革や改良区の目標設定、課題解決手法等、土地改良区の体制強化に資する講義及び実習	アール人材開発合資会社 旗持玲子 代表
<b>現地研修</b> 新東名高速道路建設残土を活用した農地造成 県下初の農業農村整備事業における太陽光発電	J A しみず 開発課 山下武治 課長補佐



## 静岡県農山村地域再生可能エネルギー利用推進協議会が設立されました

平成 27 年 11 月 13 日（金）、大井川土地改良区（島田市）を会場に、静岡県農山村地域再生可能エネルギー利用推進協議会の設立総会が開催されました。

この協議会は、県内の土地改良施設に係る維持管理費の節減及び適正な施設管理を確保するため、小水力発電等再生可能エネルギーの導入を推進することを目的として、小水力発電等を実施及び施工中の 3 土地改良区と関係 10 市町、静岡県及び水土里ネット静岡の 15 会員で設立しました。



事業内容は、FIT調整納付金の受け皿主体となり、地域における再生可能エネルギーの有効利用に資する活動を行います。

今後導入をされる予定の施設も多数あることから、導入拡大に資する内容の研修会を 3 月に開催する予定です。

## 牧之原畑地総合整備土地改良区の伊藤壽一理事長が日中関係改善に一役

平成 27 年 12 月 6 日から 9 日に、伊藤理事長が自民党農林水産戦略調査会の西川公也会長をはじめ農林水産省や土地改良区等の土地改良関係者と中国を訪問し、水利部陳雷部長（大臣相当）と両国の土地改良の技術向上に向けた情報交換を行いました。

1981 年から毎年開催していた交流は 2012 年から中断していましたが、本訪中を契機に再開することが同意されました。整備が遅れている中国に、日本の設計技術や維持・管理のノウハウを商業ベースで売り込む取組の拡大につながることで期待できそうです。



伊藤理事長（会長右上）

農村振興局 室本次長  
（会長左隣）

西川公也会長  
（前列中央）

## 行事予定

1 月		
29日	水土里ネット静岡 市町、土地改良区等代表者会議	静岡市
2 月		
25日	水土里ネット静岡 平成 27 年度 第 2 回 理事会	静岡市
3 月		
下旬	水土里ネット静岡 第 59 回通常総会及び土地改良功労者表彰式	静岡市
下旬	全国水土里ネット 第 57 回通常総会及び全国土地改良功労者表彰式	東京都
下旬	関東農地集団化推進協議会 通常総会及び表彰式	東京都

**水土里ネット静岡**（静岡県土地改良事業団体連合会）

ホームページ <http://www.sizdoren.jp>

**本部事務局、総務企画課、施設管理課、事業課**

〒 420-8601 静岡市葵区追手町 9 番 6 号  
 TEL (054) 255-5151 FAX (054) 221-3581  
 E-mail 総務企画課 総務担当 soumu@sizdoren.jp  
 企画担当 kikaku@sizdoren.jp  
 施設管理課 水土里担当 kanri-c@sizdoren.jp  
 事業課 事業担当 jigyo@sizdoren.jp  
 換地担当 kanchi@sizdoren.jp

**東部事業所**

〒 410-0055 沼津市高島本町 1-3  
 TEL (055) 920-2269 FAX (055) 920-2192 E-mail toubu@sizdoren.jp

**中部事業所**（施設管理課所管）

〒 422-8031 静岡市駿河区有明町 2-20  
 TEL (054) 286-9273 FAX (054) 286-9274 E-mail shisetsu@sizdoren.jp

**西部事業所**

〒 438-0086 磐田市見付 3599-4  
 TEL (0538) 37-2316 FAX (0538) 37-2403 E-mail seibu@sizdoren.jp